リレーエッセイ

大学の研究室で教えたいこと

福井大学の内村智博先生の次の走者として今月のエッセイを担当させていただく九州大学の財津慎一と申します。内村先生が福井大学へご転出される前の5年間を，机を並べて一緒にお仕事をさせていただきました。今の私があるのも，研究室関連の仕事を一手にお引き受けいただいた内村先生のおかげと言っても過言ではありません。感謝してもしきれない気持ちでおります。

写真はオワフ島のホノルル近郊にあるハワイ大学マノア校のキャンパスです。このキャンパスにて，本年の3月中旬に2週間，「英語によって実施される講義の質を向上するための研修」を受講して参りました。私の所属する九州大学工学部では，平成22年度より留学生が英語のみで学位の取得が可能なコースが開設され，アジアを代表する国際的教育拠点の形成を目指しています。これからはわれわれのような大学の教員は，英語にて講義を教授する能力が必須になるようです。私が研究者を志した頃には，自分が英語で講義をすることになるとは考えてもおりませんでした。このような大学の，ひいては社会全体の国際化の流れは，今後もさらに加速することが予想されます。

われわれの研究室に卒業研究をするため配属されてくる学生と話をしていると，20歳になりたての彼らが，この国際化といった現状の急激な変化や，これからの日本が置かれている厳しい状況を，全くと言っていいほど理解していないことに気付かされます。国際競争の激化や，人口の年齢構造の変化によって，日本の経済規模が縮小してきていること，それに伴って，自分たちが社会に出る時（シューカツ！）と出た後に求められる高い能力などを，彼らは誰にも教えてもらえていません。彼らは自分たちの置かれている状況に対する危機感が全くありません。

自らを振り返ってみると，彼らを笑える立場にはないことは明白です。しかし，現在は教育者としての立場にあり，このような学生たちを，どのように教育して社会へ送り出していくのかということを強く意識せざるを得ません。彼ら一人ひとりが，その潜在された能力を発揮し，社会の構成員として充実した生活を送ることこそが，日本の将来を切り開く最善の方法でしょう。以下では，大学の一研究者が，彼らに対して教えてあげたいと思っていることを述べさせていただきます。

まず，第一に重要なのは，自分が組織の一員であること，ひいては，社会の一員であるという自覚を持たせることです。組織には目的があり，すべての行動はその目的に沿ったものであることが求められます。研究室は，家族ほどはつながりが強くはないけれども，サークルやクラブ活動よりは強い絆で結ばれている組織でしょう。しかし，研究室に配属される学生に中には，これまでの人生でこのようなつながりのあるグループに所属した経験のない学生が結構な割合で存在します。このような学生は，自分の行動が組織の他の構成員に対して，なんらかの影響を及ぼすということを，体験として理解できていません。それゆえ，自分本位な行動（無断欠席・約束の不履行など）を悪気をなく繰り返します。このような学生に対して，組織の一員としての行動規範を実体験を通じて理解させることが，最初のステップです。

次に，取り組むのは，能動的な勉強と問題解決のための技法の習得です。われわれの研究室は工学部に所属しているので，「科学的知識を基礎とした新しい価値を創出する能力を養成し，社会の持続的な発展に貢献できる人材を世に送り出すこと」が研究室のミッションとなります。学生たちは，これまでに(効率的ではあるけども)完全に受動的な教育を受けてきました。しかし，上記したような人材に求められるのは，問題解決のために自らで何を学ぶかを判断し，能動的に知識を学習する能力です。これは，学生たちにとっては，大きな価値観と評価基準の転換になります。大学の研究室における卒業研究活動は，このような能力を養成するための最適な過程です。この教育過程を通じて，自分の考えを説明し，相手を説得する能力や，まだ見ぬ課題を発見しその価値を見いだす能力を身につけさせます。

そして，もはや欠かすことのできないことが，英語による情報発信の技術でありましょう。科学的知識を基礎とした新しい価値を創造するためには，英語による情報をインプットのみならず，アウトプットをする能力が必要になります。われわれの研究室では，教員と大学院生が集まって，週に1回，ある特定の話題に対して英語のみでおしゃべりをする時間を設けています。話題は，最近の社会情勢から日々の生活で考える些細な事柄まで多岐にわたります。この取り組みは，英語で話す行為へのためらいがなくなったと，卒業生からも大変好評です。私が学部の4年生の時は，英語による情報発信能力の重要性には気づいておりませんでした。これを今の学生たちにはきちんと伝えてあげたいと思っています。

次回は，同志社大学理工学部の橋本雅彦先生に執筆をお願いしております。どうぞよろしくお願いします。

〔九州大学大学院工学研究院　財津慎一〕